

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年11月4日

【四半期会計期間】 第34期第1四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

【会社名】 株式会社インテリジェント ウェーブ

【英訳名】 INTELLIGENT WAVE INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 井 関 司

【本店の所在の場所】 東京都中央区新川一丁目21番2号

【電話番号】 03(6222)7111

【事務連絡者氏名】 専務取締役 経営管理本部担当 垣 東 充

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区新川一丁目21番2号

【電話番号】 03(6222)7111

【事務連絡者氏名】 専務取締役 経営管理本部担当 垣 東 充

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第33期 第1四半期 連結累計期間	第34期 第1四半期 累計期間	第33期
会計期間	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成28年6月30日
売上高 (千円)	1,331,157	1,653,887	7,205,496
経常利益 (千円)	40,607	37,383	750,440
親会社株主に帰属する 四半期純利益 又は四半期(当期)純利益 (千円)	33,593	20,122	513,150
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)		210	
資本金 (千円)	843,750	843,750	843,750
発行済株式総数 (株)	26,340,000	26,340,000	26,340,000
純資産額 (千円)	4,698,931	4,875,474	5,013,654
総資産額 (千円)	6,136,594	6,968,328	6,944,375
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	1.28	0.76	19.48
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
1株当たり配当額 (円)			6
自己資本比率 (%)	76.6	70.0	72.2

(注) 1. 当社は、平成28年6月28日付で連結子会社でありましたIntelligent Wave Korea Inc.が清算終了したことにより、連結子会社が存在しなくなったため、当第1四半期累計期間より連結財務諸表非作成会社となりました。なお、前連結会計年度まで連結財務諸表を作成しているため、主要な経営指標等の推移については、第33期第1四半期連結累計期間は四半期連結財務諸表について、第34期第1四半期累計期間は四半期財務諸表について、第33期は財務諸表について記載しております。

2. 売上高には、消費税等は含まれていません

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、第33期第1四半期連結累計期間及び第33期は連結財務諸表を作成しているため、記載しておりません。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社グループ(当社、当社の親会社及び関連会社1社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等は行われていません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものです。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期累計期間の国内経済情勢は、ペースは鈍化しつつあるものの、緩やかな拡大を続けてきたものとみられています。企業の設備投資についても、緩和的な金融環境や将来の成長期待の高まりを受けて、緩やかな増加基調を維持しているとされています。

当社の主要な事業領域である金融業界、クレジットカード業界においても、海外からの訪日客の増加や決済手段の多様化、キャッシュレス環境の改善等の社会情勢を背景として、設備投資案件に係る商談は堅調に推移してきました。また、政府機関や企業に対する国内外からのサイバー攻撃の事案が増加するなか、サイバーセキュリティ対策に係る商談も堅調に推移しており、当社は、積極的に事業活動に取り組んできました。

当第1四半期累計期間においては、売上高は、1,653百万円となり、営業利益37百万円、経常利益37百万円、四半期純利益20百万円を計上しました。

(参考)平成28年6月期第1四半期連結累計期間実績 売上高1,331百万円、営業利益34百万円、経常利益40百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益33百万円。

クレジットカードや銀行、証券会社といった金融業界の企業を主な顧客とする金融システムソリューション事業においては、クレジットカードのほかプリペイドカードやデビットカードを利用した決済に係るネットワーク接続のシステム開発業務を中心に受注は好調に推移したため、金融システムソリューション事業の売上高は1,460百万円となりました。

しかし、前期に受注したシステム開発案件のうち、ネットワーク接続以外の分野の業務アプリケーション開発に係る案件の損益が悪化、不採算化した結果、約38百万円の損失を計上したため、金融システムソリューション事業の営業利益は52百万円に留まりました。

当社は、当社製のシステムの信頼性を高めることを目標に、開発案件の管理強化に努めてきましたが、その取り組みの一方で不採算案件が発生することとなりました。受注額は小規模ながらも特定の案件について不採算が発生した事実を真摯に受け止め、今後、より大規模な開発案件でこのようなことがないよう、一層の管理強化を進める方針です。

なお、金融システムソリューション事業のソフトウェア開発業務の受注の増加によって、当第1四半期末の受注残高は、3,006百万円を計上し、前期に続く好調を維持しています。プロダクトソリューション事業も商談が活発化しており、見込み顧客の件数も増加しているため、平成28年8月3日付けで公表した業績予想に変更はありません。

#### ・金融システムソリューション事業

金融システムソリューション事業においては、クレジットカード、銀行、証券等の金融業界の顧客に対して、ソフトウェア開発や保守、パッケージソフトウェア及びハードウェアの販売による売上を計上しました。売上高は1,460百万円、営業利益は52百万円となりました。

金融システムソリューション事業は、システム開発案件の受注から完了に至る各工程において当初の見積を超

える費用が発生する可能性があるほか、開発案件ごとに粗利率が異なる特性があり、事業全体の利益の変動要因になります。また、システム開発やシステムの更新に併せてサーバー等のハードウェアを販売しており、案件の規模や内容によってハードウェアの売上高が変わります。当社製パッケージソフトウェアの販売もシステム開発の規模や内容によって実績が変わります。これらハードウェア、ソフトウェアの販売実績による利益額の変動も、事業全体の利益率の変動の要因になります。

#### ・プロダクトソリューション事業

プロダクトソリューション事業においては、企業組織内部からの情報漏えいを防ぐ当社製パッケージソフトウェアCWAT（シーワット）と、外部からのサイバー攻撃を防ぐ他社製パッケージソフトウェアTraps（トラップス）の販売等によって、売上高は193百万円、営業損失は14百万円となりました。

当期においては、他社製パッケージソフトウェアの販売が前年同四半期より伸びた反面、当社製パッケージソフトウェアの販売は減少したため、売上高は193百万円となりました。

また、比較的利益率の高い当社製パッケージソフトウェアの販売が減少したことにより、営業損失14百万円を計上することとなりました。

なお、当社は、平成28年6月期第1四半期は連結業績を開示しておりましたが、第1四半期より非連結での業績を開示しております。そのため、平成29年6月期第1四半期の経営成績(累計)及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

### (2) 財政状態の分析

#### (資産)

当第1四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末に比べ23百万円増加し、6,968百万円となりました。うち流動資産は、前事業年度末に比べ277百万円減少し、4,404百万円となりました。これは主に、現金及び預金77百万円の増加がありましたが、受取手形及び売掛金570百万円の減少があったためです。固定資産は、前事業年度末に比べ301百万円増加し、2,563百万円となりました。これは主に、無形固定資産276百万円の増加があったためです。

#### (負債)

当第1四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末に比べ162百万円増加し、2,092百万円となりました。これは主に、未払法人税等114百万円の減少がありましたが、支払手形及び買掛金57百万円の増加並びに賞与引当金73百万円の増加があったためです。

#### (純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末に比べ138百万円減少し、4,875百万円となりました。これは主に、利益剰余金137百万円の減少によるものです。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

### (4) 研究開発活動

当第1四半期累計期間の研究開発費の総額は1百万円です。

なお、当第1四半期累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	105,360,000
計	105,360,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年11月4日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	26,340,000	26,340,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株でありま す。
計	26,340,000	26,340,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年7月1日～ 平成28年9月30日		26,340,000		843,750		559,622

## (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしています。

## 【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,339,200	263,392	
単元未満株式	普通株式 800		
発行済株式総数	26,340,000		
総株主の議決権		263,392	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が700株(議決権7個)含まれています。

## 【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
計					

## 2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は当第1四半期累計期間より四半期財務諸表を作成しているため、四半期損益計算書に係る比較情報を記載しておりません。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けています。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は、前第1四半期累計期間では四半期連結財務諸表を作成しておりましたが、平成28年6月28日付で連結子会社でありましたIntelligent Wave Korea Inc.が清算終了したため、財務諸表作成会社となりました。

当第1四半期累計期間より四半期財務諸表を作成しているため前年同四半期の比較情報は記載しておりません。

## 1 【四半期財務諸表】

## (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,852,325	2,929,896
受取手形及び売掛金	1,291,967	721,611
たな卸資産	264,280	337,702
その他	273,208	415,130
流動資産合計	4,681,781	4,404,341
固定資産		
有形固定資産	400,661	426,661
無形固定資産	565,325	842,305
投資その他の資産		
投資有価証券	761,701	761,527
その他	622,980	621,561
貸倒引当金	88,075	88,069
投資その他の資産合計	1,296,607	1,295,019
固定資産合計	2,262,593	2,563,986
資産合計	6,944,375	6,968,328
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	363,354	420,570
未払法人税等	143,707	29,171
賞与引当金	223,640	296,824
役員賞与引当金	27,400	1,338
その他	614,491	774,620
流動負債合計	1,372,593	1,522,525
固定負債		
退職給付引当金	388,906	398,099
役員退職慰労引当金	15,697	15,783
資産除去債務	51,832	61,668
その他	101,691	94,776
固定負債合計	558,127	570,328
負債合計	1,930,721	2,092,853
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	843,750	843,750
資本剰余金	559,622	559,622
利益剰余金	3,436,101	3,298,184
株主資本合計	4,839,473	4,701,556
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	174,180	173,917
評価・換算差額等合計	174,180	173,917
純資産合計	5,013,654	4,875,474
負債純資産合計	6,944,375	6,968,328



## (2) 【四半期損益計算書】

## 【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)
売上高	1,653,887
売上原価	1,311,985
売上総利益	341,902
販売費及び一般管理費	304,038
営業利益	37,864
営業外収益	
受取利息	274
受取配当金	400
保険事務手数料	249
その他	170
営業外収益合計	1,094
営業外費用	
支払利息	168
為替差損	304
コミットメントフィー	1,102
その他	0
営業外費用合計	1,575
経常利益	37,383
特別利益	-
特別損失	
固定資産除却損	3
特別損失合計	3
税引前四半期純利益	37,380
法人税、住民税及び事業税	22,100
法人税等調整額	4,843
法人税等合計	17,257
四半期純利益	20,122

【注記事項】

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期会計期間から適用しております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成していません。

なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりです。

	当第1四半期累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)
減価償却費	54,997千円

(株主資本等関係)

当第1四半期累計期間(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年9月28日 定時株主総会	普通株式	158,040	6	平成28年6月30日	平成28年9月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期累計期間(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	金融システム ソリューション事業	プロダクト ソリューション事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,460,047	193,840	1,653,887	1,653,887
セグメント間の内部売上高 又は振替高				
計	1,460,047	193,840	1,653,887	1,653,887
セグメント利益又は損失( )	52,823	14,959	37,864	37,864

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

セグメント利益又は損失の金額の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しているため、差異調整は行っていません。

(持分法損益等)

当第1四半期会計期間 (平成28年9月30日)	
関連会社に対する投資の金額	24,680千円
持分法を適用した場合の投資の金額	109,132千円
当第1四半期累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)	
持分法を適用した場合の投資利益の金額	210千円

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は以下のとおりです。

項目	当第1四半期累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	0円76銭
四半期純利益金額(千円)	20,122
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	20,122
普通株式の期中平均株式数(株)	26,340,000

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月4日

株式会社インテリジェント ウェイブ  
取締役会 御中

### 三優監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 杉 田 純 印

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 岩 田 亘 人 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社インテリジェント ウェイブの平成28年7月1日から平成29年6月30日までの第34期事業年度の第1四半期会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社インテリジェント ウェイブの平成28年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。